

日本 IVR 学会 国際交流促進制度

CIRSE 2012 参加印象記

大阪市立総合医療センター 放射線診断科 市來 真

日本 IVR 学会 2012 年度国際交流促進制度により 9 月 15 日から 19 日にポルトガルのリスボンで開催された CIRSE 2012 に参加させて頂き、有難うございました。

学会のプログラムは全体的に教育を重視した内容となっていました。Electronic Posters は 400 近い演題があり、日本からは、康生会武田病院の金崎周造先生が Certificate Merit を受賞され、閲覧回数でもトップ 10 以内に入っていました。

以下に興味をもった演題について報告させて頂きます。

2206.3

Comparison of the survival and tolerability of radioembolization in elderly versus younger patients with unresectable hepatocellular carcinoma (HCC) (J.I. Bilbao, Spain)

HCC における radioembolization の耐容性と年齢の影響の評価。対象は 70 歳以上の年長者 128 症例と 70 歳未満の若年者 197 症例。全生存期間は年齢や病期によって影響されず、両群とも耐容性があった。

2206.5

Radioembolization with infusion of Y-90 microspheres into the right inferior phrenic artery is feasible and safe in selected patients with the use of state-of-the-art imaging techniques (M.C. Burgmans, Singapore)

下横隔動脈の radioembolization の有用性と安全性を検討した retrospective study。5 患者が右下横隔動脈に Y-90 が注入され、技術的成功が Y-90 imaging によって証明された。平均 4.5 ヶ月の経過観察で有害事象は生じなかった。

3009.2

Ten-year outcome of percutaneous radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma : does local tumor progression affect survival? (H.Rhim, Korea)

早期 HCC の第一選択治療とした RFA の成績の評価。累積局所再燃率は 5 年で 27.0%、10 年で 36.9% であり、重大危険因子は大きな腫瘍であった (B=0.543, P<0.001)。全生存率は 5 年並びに 10 年で 59.7% 並びに 32.3% であり、高齢 (B=0.025, p<0.001)、Child-Pugh class B (B=-0.689, p<0.001)、大きな腫瘍 (B=0.169, p=0.016)、肝内異所再発 (B=-0.270, p<0.030)、肝外再発 (B=1.125, p<0.001) で低かった。単変量解析、多変量解析により局所腫瘍再燃の発生は全生存期間に影響しなかった (p=0.729 並びに p=0.401)。

3009.3

Role of transarterial chemoembolization as bridging strategy in T2 HCC patients on the waiting list (E. Bozzi, Italy)

T2 HCC の患者に対して肝移植前における TACE 施行群と bridging therapy 未施行群の長期治療成績を比較した retrospective study。患者は A) bridging therapy なし ; B) TACE 後, CR ; C) TACE 後, PR もしくは PD の 3 集団に分類された。5 年全生存率、無再発生存率、無病生存率は順に 75.2%、92.7%、73.2% であった。生存率は C 集団より B 集団で十分高かった。腫瘍 > 3 cm において周術期の死亡に対する無病生存率は A 集団より B 集団で高かった (p=0.05)。

3009.5

Radioembolization for hepatocellular carcinoma due to Hepatitis B Virus : long-term study showed suboptimal survival and alarming liver toxicity (S.C.-H. Yu, Hong Kong)

HBV 感染患者において HCC に対す

る radioembolization の治療結果並びに有害事象を評価し、予測因子を特定した長期研究。全生存期間の中央値は 7.5 ヶ月であった。短い生存期間の予測因子は ECOG PS grade 1 or 2 (p=0.049), INR>1.2 (p=0.010), 腫瘍 > 5 cm (p=0.012), 静脈浸潤 (p=0.035), AFP 値 > 200 ng/ml (p=0.001) などであった。有害事象の予測因子は年齢 > 65 歳 (OR 2.87, P=0.028), INR>1.2 (OR 3.09, P=0.019) であった。

3009.6

Volumetric changes after 90Y-radioembolization for hepatocellular carcinoma (HCC) : an option to portal vein embolization before liver (Y. Rolland, France)

HCC に対する外科手術前の門脈に対する 90Y-radioembolization の肝容積変化を評価した retrospective study。治療された肝容積 (TrV), 腫瘍容積 (TuV), 治療反対側肝容積 (CV) が測定され、全肝容積 (WLV=TrV+CV) と virtual hepatectomy 後の機能的残肝率 (FFRLV, CV/WLV-TuV) が計算された。Radioembolization 前後で平均 TrV は減少し (p<0.001), 平均 CV は増加した (p<0.001)。WLV は著変を認めなかった (p=0.92)。CV の平均増加率は +42% であった。平均 FFRLV は 48.1% から 59.9% に増加し (p<0.001), FFRLV 50% 以上の患者の割合は 47.1% から 67.6% に増加した (p=0.013)。

P-78

Risk factors of liver complications related to extrahepatic artery embolization for massive hemorrhage after pancreatobiliary surgery (K. Shibuya, Japan)

膵胆管系手術後の大量出血に対する肝動脈塞栓術 (HAE) に関連した重大肝合併症の危険因子を評価した retrospective study。対象は 20 患者。HAE 後、全症例で血行状態は安定した。2 患者は多臓器不全で死亡した。重大肝合併症は 5 患者で生じ、4 患者で肝不全、2 患者で肝梗塞が認められた。重大肝合併症は治療前の SI>1.0 と十分関連していた (p=0.014, Fisher exact test)。



会場入り口にて

P-80
Quantitative estimation of splenic infarction using Murray's law before partial splenic embolization
(J. Koizumi, Japan)

PSEにおいて脾動脈造影のMurrayの法則に基づいた脾梗塞率と塞栓術1週間後の造影CTの脾梗塞率の比較検討。両者の脾梗塞率は十分相関した($r=0.49$)。

P-180
Anatomical assessment of the origin of the right inferior phrenic artery with the use of MDCT
(S. Kanasaki, Japan)

MDCTにおける右下横隔動脈の描

出能並びに起始部の検討。309症例中、303症例で右下横隔動脈の起始部が同定された。2症例で2本の右下横隔動脈が存在し、全305本の右下横隔動脈が評価された。158症例で大動脈の分枝(殆ど腹腔動脈)から分岐していた。一方、147症例で大動脈から直接分岐し、その分岐部は腹腔動脈と上腸間膜動脈の間の右側が最も多く、腹腔動脈の左上側が次に多かった。88症例で左下横隔動脈との共通幹から分岐していた。共通幹は45症例で大動脈の分枝(1例を除き、腹腔動脈)から分岐していた。一方、43症例が大動脈から直接分岐し、その分岐部の殆どは大動脈左側であり、腹腔動脈の左上側が最も多かった。

P-327
Super selective arterial embolization with absolute ethanol during microballoon occlusion for angiomyolipoma of the kidney
(Y. Kodama, Japan)

腎血管筋脂肪腫に対する無水エタノールを用いたマイクロバルーン閉塞下超選択的動脈塞栓術に対する評価。対象は4患者の単発病変と結節性硬化症の1患者に多発した4病変。8病変に対する全塞栓術は技術的成功を収めた。合併症はなかった。